

日総工産株式会社

【2020年3月期 決算説明 主な質疑応答】

2020年5月12日発表

当内容は発表後にいただいた質問より、主な質疑応答を記載しております。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

**Q1:**日総工産の2020年3月期の営業利益は第3四半期に対し、第4四半期が大幅に伸びていますが、その理由について教えてください。

**A1:**売上高については、アカウント企業グループの自動車企業や半導体企業からの需要が好調であったこと、また新型コロナウイルス感染拡大の影響が限定的であったことなどにより増加いたしました。営業利益については、顧客からのオーダー状況を分析し、募集費等をコントロールしたことなどにより販売管理費を抑制した結果、第3四半期を上回ることができました。

**Q2:**2020年3月期では新型コロナウイルス感染拡大の影響は限定的という説明でしたが、2021年3月期第1四半期における影響は発生しているのでしょうか。また今後の見通しについて教えてください。

**A2:**一部の取引先では休業が発生しておりますが、取引先企業より休業補償をいただくことも多いため、業績に対する影響は限定的であり、また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による取引終了は現時点ではございません。しかし、この感染拡大が長期化することで、取引先企業が更に影響を受けると、取引規模の縮小や取引終了となる可能性があります。今後の見通しについては、現時点では新型コロナウイルス感染拡大の影響が不明なため、未定とさせていただきますが、この影響の度合いが判明した時点で改めてご説明させていただきます。

**Q3:**その他事業について、2020年3月期第4四半期では営業損失が増加し、2020年3月期通期も赤字でしたが、今期の見通しについて教えてください。

**A3:** 2020年第4四半期では、すいとぴー東戸塚(6号館)の入居者数増加とサービス安定化を企図したヘルパー投入による投資を行ったことにより、営業損失が増加いたしました。今期につきましては、3月末時点の入居者は定員94名に対し73名であり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により内覧中止等、若干の遅れはありますが、引き続き入居者増加を図り、黒字化を目指してまいります。

**Q4:** 今期の自動車生産台数は減少するという報道がありますが、この生産台数減少の影響について教えてください。

**A4:** 今後のメーカーの動向を予測することは新型コロナウイルス感染拡大の影響が不明であるため困難ですが、当社といたしましては、中長期戦略である技能社員を育成し、積極的に配属を推進し、シェアアップを図っていくことで、生産台数が減少しても、当社への影響は抑えられると考えております。

**Q5:** 電子デバイスの動向は、回復時期が遅れているとの説明がありましたが、現時点での見通しはどのように考えているのでしょうか。

**A5:** 電子デバイスの回復は、当初は2021年3月期第2四半期ぐらいからと予想しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、回復時期は遅れると見込んでおり、具体的な回復時期については、情報を収集し精査を行っております。この電子デバイスの回復時には5G関連をはじめとした需要の拡大が期待できると見込んでおりますので、顧客企業からのオーダーに応えられるように、設備保全者をはじめとした人材の育成を進めております。

**Q6:** 2021年3月期の通期連結業績見込みや中期経営計画を発表しておりませんが、いつ頃に発表する予定ですか。

**A6:** 現在、社内で新型コロナウイルス感染拡大の影響等の情報収集を行っております。通期連結業績見込みや中期経営計画については、これらの収集した情報をもとに、遅くとも2021年3月期第1四半期決算時までには発表したいと考えております。

以上